

平成 21 年 9 月

雪崩の音雪崩に少し遅れたる
夏蝶を出したり入れたり夏木立
夏に入る蛇口のどこか水漏れて
夏めくや駄菓子のでりー透き通り
なにごとも中途半端で温め酒
なにもありませんよと出され冷奴
怠けぐせ御用始の早退けは
縄跳びの虚脱の縄を置き去りに
縄跳びの縄元々は只の縄
逃水がゆく吾と等間隔保ち
虹は生き物虹の字に虫が棲む
二進も三進も行かず年の瀬にのりあげて
日本は夜尿布団の地図のここ
抜き足差し足夜食の台所
農道に蜜柑ころがるもったいない
軒氷柱瘦せんがために滴して
軒つらら陽に大泣きをしてをりぬ
残る蝉らの残り時間のチヂ刻々

梅園へ大矢印に案内さる
俳人に睨まれ溶ける去年の雪
俳人の耳に届いて秋の声
破壊本能蒲公英の絮を吹く
ハグハグやロシア娘も息白し
爆発寸前の原子爆弾烏瓜
葉桜や茂りて鬱(うつ)の闇つくる
初鯉一匹届きさあ大変
初鯉一匹まずは腕まくり
初夏の少女オデコを光らせる
バイバイをして行く春の汐まねき
花衣まつわるほどの紐なくて